

Senzoku Gakuen College of Music  
Green-Tie Wind Ensemble

洗足学園音楽大学  
グリーン・タイウインド・アンサンブル  
演奏会



2022.6.28

18:30 開演

18:00開場／20:00終演予定

洗足学園 前田ホール



主催

洗足学園音楽大学・大学院



## 新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

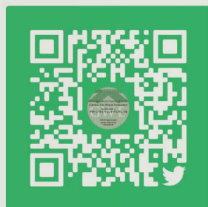
- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場して下さい。
- ・客室内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

## 電子プログラムについてのお願い

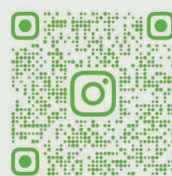
- ・客席内は電波を遮断しておりますので、ダウンロードは、ロビーなどインターネットに繋がる環境にてお願いします。
- ・演奏中のスマホ、タブレット端末等電源オフの必要はありません。ただ、不用意に音が出ないように留意願います。
- ・基本的には、演奏中のプログラムの閲覧はご遠慮いただき、ぜひ、演奏に目や耳を傾けていただけたらと思います。しかし、もし演奏中にプログラムをご覧になりたい場合には、周りのお客様のご迷惑にならないよう、画面の明るさなどにご配慮をお願い申し上げます。

洗足学園音楽大学  
グリーン・タイ ウインド・アンサンブル演奏会に  
ご来場いただき  
ありがとうございます  
最後までごゆっくりお楽しみください

Twitter



Instagram



SENZOKU.GWE

ぐりんぐりん吹奏楽!Green-Tie Tube

 YouTube



Facebook





指揮：藤岡幸夫

Fujioka, Sachio

英国王立ノーザン音楽大学指揮科卒業。1992年最も才能あるEU加盟国の若手指揮者に贈られる「サー・チャールズ・グロヴス記念奨学賞」を日本人にもかかわらず特例で受賞。

1993年BBCフィルの定期演奏会が「タイムズ」紙などで高く評価され、1994年にロンドン夏の風物詩「プロムス」にBBCフィルを指揮してデビュー。大成功を収め、以降ロイヤル・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル等多くの海外オーケストラに客演。スペインでのオペラ公演デビューとなった2006年スペイン国立オヴィエド歌劇場ブリテン「ねじの回転」がその年の同劇場の新演出オペラのベスト・パフォーマンス・オブ・ザ・イヤーに選ばれると、2009年にはR.シュトラウス「ナクソス島のアリアドネ」で再び脚光を浴び、2017年5月にはアイルランド国立交響楽団にマーラーの第5交響曲で客演、聴衆総立ちの大成功を収めた。

マンチェスター室内管弦楽団首席指揮者、日本フィルハーモニー交響楽団指揮者を経て、現在関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団首席客演指揮者を務める。毎年40公演以上を共演し2022年に23年目のシーズンを迎えた関西フィルとの一体感溢れる演奏は常に高い評価を得、2019年の就任直後から展開している東京シティ・フィルとの特徴ある活動は毎回大きな注目を集めている。

英シャンドスと契約し、これまでにBBCフィルと8枚のCDをリリース。関西フィルと進行中だったシベリウス交響曲全集を2021年9月ALM RECORDSから発売。2020年12月に出版された『音楽はお好きですか?』の続編、『続・音楽はお好きですか?』を2021年12月に敬文舎より刊行。

大晦日のテレビ東京系全国ネット「東急ジルベスター・コンサート」に2回、「題名のない音楽会」など、テレビ、ラジオへの出演にも幅広く活躍。なかでも番組の立ち上げに参画し、指揮・司会として関西フィルと共に出演中のBSテレ東『エンター・ザ・ミュージック』（毎週土曜朝8:30）は2021年10月で8年目に突入、放送350回を越える人気番組。

2002年渡邊暁雄音楽基金音楽賞受賞。

東大阪市特別顧問、滋賀県長浜市文化観光大使、きょうと城陽応援大使。

公式ファンサイト <http://www.fujioka-sachio.com/>

## 伊藤康英／コラール前奏曲

### 「おお、人よ、汝の罪の大いなるを嘆け」による幻想曲（2002/2012）

Ito, Yasuhide (\*1960) / Fantasia on a Bach Chorale Prelude, "O Mensch, bewein dein Sünde groß" (9:00)

## C.リフタ／ホーム・アウェイ・フロム・ホーム（2019） [日本初演]

Catherine Likhuta (\*1981, Kiyv-Australia) / Home Away from Home (8:30) – Japan premiere

## D.ミヨー／フランス組曲（1945）

Darius Milhaud (1892-1974) / Suite Française (16:00)

1. ノルマンディ  
1. Normandie
2. ブルターニュ  
2. Bretagne
3. イル・ド・フランス  
3. Ile de France
4. アルザス＝ロレーヌ  
4. Alsace-Lorraine
5. プロヴァンス  
5. Provence

## 休 憩

## K.フサ／プラハ1968年のための音楽（1968）

Karel Husa (1921-2016) / Music for Prague 1968 (18:30)

1. 序奏とファンファーレ  
1. Introduction and Fanfare
2. アリア  
2. Aria
3. 間奏曲  
3. Interlude
4. トッカータとコラール  
4. Toccata and Chorale

## 伊藤康英／ピース、ピースと鳥たちは歌う（2001/2018）

Ito, Yasuhide (\*1960) / Peace, Peace, so Sing the Birds (8:30)

## 解説

伊藤康英

### ●伊藤康英／コラール前奏曲「おお、人よ、 汝の罪の大いなるを嘆け」による幻想曲

2001年は21世紀のはじまりの年だった。

その年の9月11日、ニューヨークの世界貿易センターがテロの標的とされ、崩れ落ちる衝撃的な光景がライブ映像としてテレビに映し出された。ああ、21世紀もこんな幕開けになってしまった。思えば20世紀も戦争ばかりだったじゃあないか。人の罪のなんと大きなことだろうかと思った。そのとき、高校時代から愛奏していた一つのコラールが思い浮かんだ。それをもとに演奏時間14分ほどの《コラール幻想曲》を作曲。その後8分強に再構築したのがこの作品。

題名として掲げたコラールの定旋律（譜例参照）をもとにしたバッハのBWV402を冒頭に、最後にBWV622を引用した。コラールの最後はテンポが極めて遅くなる。これは、コラールの歌詞「キリストは長い間十字架に架けられた」によるもの。そして最後のコラールの中で荒れ狂わんばかりの打楽器の大音声に、人間の罪の大きさを表した。

航空自衛隊中部音楽隊委嘱。再構築されたこの作品は静岡県浜松市立高等学校吹奏楽部委嘱。

### ●C.リフタ／ホーム・アウェイ・フロム・ホーム

「遠く離れていても家と呼べる場所」の意。キウ生まれ、アメリカに8年住み、オーストラリアに永住する女性作曲家。以下作曲者による解説。

ジェイソン・ノーブル氏に委嘱され、コロロンビア大学ウィンド・アンサンブルのために作曲。

ウクライナ、アメリカ、オーストラリア、これら3つの国々はいずれも私にとっては故郷と言え、離れていても友人などを懐かしく思い、等しく故郷だと感じている。

2005年から2009年まで居住していたニューヨーク州イサカに、長期休暇のため家族と向かう直前にジェイソンから委嘱を受け、途中ウクライナにも立ち寄った。忘れかけていた感動や体験があった。そして、これら3つの場所は私の家から離れていることに気づいた。そして、作曲の依頼を受けた大学の新生入生についても想いを巡らせた。

彼らは両親のもとを離れて家を見つけ、キャンパスで新しい生活と仲間を見つける。この興奮と感動を作品に反映させた。

飛行機の離陸にも似た、新しい始まりの興奮で音楽は始まる。エンジンの始動と心拍数の上昇。

続くメランコリックな部分は、かつて暮らしていた家を訪れた際の追憶。そこに暮らしていた人たちはすでにこの世に無い。私は生き抜いて、音楽で表現したいと思った。悲喜交々の感情。

そして、楽観的でファンキーな冒頭部に戻る前に緊張を高め、ウクライナの民族音楽に触発されたクライマックスになる。が、少し風変わりなワルツが突然に挿入され、前向きな音楽で終わる。

グリーン・タイに何度か客演指揮にお越しいただいたティモシー・レイニッシュ氏が、この作品を、作曲者の母親は3月上旬にキウで逝去されたとの報せと共にフェイスブックで紹介していた。

今、故郷は、家と呼べても、あまりにも遠いかもしれない。

### ●D.ミヨー／フランス組曲

第二次世界大戦を避け、ミヨーはアメリカに住んでいた。そこで彼は、ナチス・ドイツの侵略下にあった故国フランスが、アメリカをはじめとする連合国軍の力によって救われたことを知った。そこでアメリカへの感謝の気持ちを表し、フランスの民謡（譜例参照）をもとに作曲したのがこの組曲である。5つの楽章のそれぞれには、フランス各地の地名が付けられた。《ノルマンディ》《ブルターニュ》《イル・ド・フランス》《アルザス＝ロレーヌ》《プロヴァンス》、これらはとくに戦争の激しかった地域だ。ミヨーは言う。

「フランスでよく知られているメロディを、アメリカの若者たちにきいてもらいたかった。彼らの父親や兄弟たちは、ドイツの侵略者を打ちのめすために戦ってくれたのだ」。

リーズ出版社委嘱。1945年6月13日、ゴールドマン・バンドにより初演。

ところで「ノルマンディ」で思い起こすのは、1944年6月6日の連合国軍の「ノルマンディ上陸」。同年8月末までにフランスの大部分を解放。

そして第4曲「アルザス＝ロレーヌ」は葬送行進曲ではないか。この地域は1940年6月、ドイ



ツの占領地区とされた。それ以前の普仏戦争の昔から争いの絶えない地域だった。この地を舞台としてアルフォンス・ドーデは1873年に「最後の授業」という小説を書いている。これはかつて、日本の国語の教科書にも掲載されていた。

《フランス組曲》の各曲のタイトルは、フランス人が見たらその意図するところが誰にも分かるというものだ。それはつまり「日本組曲」を作ったとして、それぞれの楽章に「広島」「長崎」と題されているようなことではないのか。

### ●K.フサ／プラハ 1968年のための音楽

フサは、チェコ出身のアメリカの作曲家。フサ自身による解説文を掲げる。プログラムに掲載の上、コンサート前の必読が求められている。

「この作品は、主に3つの楽想によって成り立っている。第1の、そして最も重要な楽想は、15世紀の古いフス教徒の戦争の歌《汝ら、神の勇士たち》である。これは、チェコの人たちにいかなる運命がのしかかるうとも、何百年もの間レジスタンスと希望の象徴として歌われてきた。この歌はまた、スメタナの《わが祖国》はじめ、多くのチェコの作曲家によっても使われてきている。第1楽章冒頭は宗教的な歌がティンパニで柔らかく提示され、力強いユニゾンで締めくくられる。この歌は一部分だけ使われている。

第2の楽想は、終始きこえる鐘の音である。プラハは「百塔の塔」の街とも呼ばれる。教会の塔からはすばらしい鐘の音が鳴り響く。時に悲痛な叫び声として、また時に勝利の喚声として。

第3の楽想は、冒頭のピッコロ独奏のもとでフルート、クラリネット、ホルンによって柔らかく奏でられる3つの和音。これは後に、たとえば《アリア》の中間などで極めて強い音量で再び現れる。

この作品では、さまざまな作曲技法やオーケストレーションが用いられている。《間奏曲》での打楽器のアンサンブルや、全曲の最後の部分などで、時折新しいサウンドが現れる。また象徴性も現れる。さらには第1楽章《ファンファーレ》での悲痛な呼び声、これはフスの歌への望みが途切れないことを意味する。あるいは《アリア》での悲劇。また曲の冒頭では、鳥の鳴き声がピッコロによって奏でられる。それは自由の象徴である。数千年

の歴史の中でプラハが見せた、ほんのひとときの自由の象徴なのである」。

1968年前半、チェコスロバキア（当時）では自由化政策がとられていた。新任のドブチェク党第一書記のもと、検閲の廃止や政党の復活などの改革が行われた。国外旅行も自由となり、世に言う「プラハの春」が始まった。ところがそんな矢先、同年8月20日、ソ連・東欧軍がチェコに侵攻、翌21日にはプラハをはじめ全土を制圧。自由が踏みじられたのだった。「チェコ事件」である。

故国の悲劇をフサはアメリカで知った。休暇中の夕暮れに点けたトランジスタ・ラジオによって。遠い故郷に想いを馳せ、また怒りや抗議の印としてスコアに書きつけたのが、この曲である。

スメタナやドヴォルザークなども作品に用いたフス教徒の歌（譜例参照）が全編を貫く。

1969年1月31日、イサカ大学吹奏楽団の委嘱により初演。

軍が撤退し、再びプラハに春が訪れたのは1989年のことであった。そして90年によくフサは故国の地を踏みしめ、この曲を自ら指揮した。

フサはもともとエンジニアになるための学校に通っていたが、第二次世界大戦の爆撃で大学が破壊された。子供の頃からヴァイオリンを習っていたので、音楽大学に行き作曲を勉強したという。皮肉にも彼の音楽人生は、戦争によってもたらされたのだった。

### ●伊藤康英／ピース、ピースと鳥たちは歌う

2001年は21世紀の始まりの年だ。

21世紀こそは平和な時代であってほしいと願ったときに、カタロニア民謡《鳥の歌》（譜例参照）が思い浮かんだ。チェリストのカザルスが1974年に国連で、「わたしの祖国では、鳥たちは『ピース、ピース、ピース（平和）と鳴く』と語ってのち演奏したことで知られる。本来はクリスマスの民謡ではあるが、むしろ平和を希求するメッセージとしてこの歌は鳴り響く。

この歌を用い2001年1月、4つのバンドを擁する大編成吹奏楽曲《平和と栄光》（創価グロリア吹奏楽団委嘱）を作曲、そして、のちに創価大学パイオニア吹奏楽団委嘱により再構成したのがこの作品である。

## 譜例集

コラール前奏曲「おお、人よ、汝の罪の大いなるを嘆け」による幻想曲  
(コラールの原曲(ドイツ語))

### O Mensch, bewein' dein' Sünde groß

O Mensch, be - wein dein Sün - de groß, dar - um Chri - stus seins Va - ters Schoß äü -  
von ei - ner Jung - frau rein und zart für uns er hie ge - bo - ren ward, er  
bert und kam auf Er - den; Den To - ten er das le - ben gab und  
wollt der Mitt - ler wer - den.  
legt da - bei all Krank - heit ab, bis sich die Zeit der - dran - ge, daß er für uns ge -  
kreuz - get würd, trug un - ser Sünd und schwe - re Bürd wohl an dem Kreu - ze lan - ge.  
十字架 長く

フランス組曲 (元となったフランス民謡(フランス語))

### Germaine

Modéré sans lenteur (Moderato con moto)

Ger - mai - ne se pro - mè - ne Dans ses jar - dins fleu - ris, Ger - mai - ne se pro -  
mè - ne Dans ses jar - dins fleu - ris. En son che - min ren - con - tre Trois ca - va -  
liers jo - lis, Ont dit: "Bon - jour, fil - let - te, Que fai - tes vous i - ci?"

### La bergère de France et le roi d'Angleterre (The French Shepherdess and the King of England)

Allegro

Dans Pa - ris il y a, Dans Pa - ris il y a, Que di - ti, que di -  
ton, Que di - tai - ne don? Dans Pa - ris il y a Plus de cinq cents ber - gè - res.

### La paimpolaise (Chanson des Pêcheurs d'Islande)

Allegretto

(Eugène Feautrier (1849-98))

Quit - tant ses ge - nêts et sa lan - de, Quand le Bre - ton se fait ma - rin, En al - lant



aux pê - ches d'Is - lan - de Voi - ce quel est le doux re - frain Que le pau - vre gâs Fre - don - ne tout

**Gaiement et un peu plus vite**

bas: \_\_\_\_\_ J'ai - me Paim - pol - et sa fa - tai - se, Son é - gli - se et son grand Par -

don; \_\_\_\_\_ J'ai - me sur - tout la Paim - po - lai - se Qui m'at - tend au pa - ys bre - ton! \_\_\_\_\_

**Les marins de Groix (The Sailors of Lee)**

**Un peu lent et plaintif, mais rudement rythmé**

(Rather slow and plaintive, but with steady rhythm)

Nous é - tions deux, nous é - tions trois, Nous é - tions deux, nous é - tions trois

Nous é - tions trois ma - rins de Groix. Mon tra - dé - ri - tra, tron lon

la, Mon tra - dé - ri - tra la lè - - - - re.

**La chanson des métamorphoses (The Song fo Transformations)**

**Moderato**

Mi - gnon - ne, ma mi - gnon - ne, Mon cœur jo - li, Mi - gnon - ne, ma mi - gnon - ne,

Mon cœur jo - li, J'te donn' - rai cinq cents li - vres De mon ar -

gent Si tu y veux me ren - dre Le cœur con - tent. \_\_\_\_\_

**A ma main droite j'ai un rosier (with Care I Tend my Rosebush Gay)**

**Allegretto**

A ma main droit' j'ai un ro - sier, A ma main droit' j'ai un ro - sier, Qui por - te  
En - trez en dans', char - mant ro - sier, En - trez en dans', char - mant ro - sier, Et puis

rose au mois de Mai, Qui por - te rose au mois de Mai. \_\_\_\_\_  
vous em - bras - se - res Cel - le que vous ai - me - rez. \_\_\_\_\_

Fait' un tour, de - mi - tour, Em - bras - ses tou nos a - mours.

## Voice la Saint-Jean (Lo, 'Tis Sant John's Day)

**Modéré et gracieux (Moderato e grazioso)**

Voi - ci la Saint - Jean, la gran - de jour - né - e, Voi - ci la Saint -  
Jean, la gran - de jour - né - e, Où les a - mou - reux vont à l'as - sem -  
blé - e. Par - tons, jo - li cœur, car la lune est le - vé - e.

## La belle au rosier blanc (The Fair maid of the White-Rose Tree)

**Très modéré (Molto moderato)**

Des - sous le ro - sier blanc La bel - le se pro - mè - ne, Plus blan - che que la  
nei - ge, Plus bel - le que le jour. Trois jeu - nes ca - pi - tai - nes S'en - vont lui fair' la - cour.

## Voici le mois de Mai (Lo, 'Tis the Month of May)

**Animé et bien rythmé**

Voi - ci le mois de mai, Lon lan la ti - re, li - re, Voi - ci le mois de mai, Que  
don - n'rai - je à ma mi - e? Que don - n'rai - je à ma mi - e? A sa por - te jo - li - e.

## Le mois de Mai (the Month of May)

**Un peu lent et soutenu (Rather slow and sustained)**

Voi - ci ve - nir le jo - li mois, L'a - lou - et - te chante au bois, \_\_\_\_\_  
Voi - ci ve - nir le jo - li mois Où les ro - siers bou - ton - nent, \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_ Où les ga - lants s'en vont por - tant Des fleurs à leurs mi - gnon - nes. \_\_\_\_\_

## Magali (Chanson Provençale)

Modéré et bien rythmé (Moderately, and well rhythmé)

O Ma - ga - li, ma tant a - ma - do, Me - te la tês - to au fe - nes -  
troun: Es - con - to un pau a - que - sto au - ba - do De tam - bou - rin e de - vioù -  
loun. Ei plen d'es - tel - lo a - pe - ra - mount! L'au - ro es - toum - ba - do;  
Mai lis es - tel - lo pa - li - ran, Qund te vei - ran!

プラハ1968年のための音楽 (フス教徒の讃歌《汝ら神の戦士たち》(チェコ語))

## Kdož jste boží bojovníci (husitský chorál)

Kdož jste bo - ží bo - jo - v ní - ci, a - zá - ko - na je - ho,  
誰ですか 神の 戦士たち  
pros - te od Bo - ha po - mo - ci a dou - fej - te v ně - ho,  
že ko - ne - čně s ním vždy - cky zví - tě - zí - te.

ピース、ピースと鳥たちは歌う (カタロニア民謡《鳥の歌》(カタロニア語))

## El Cant Dels Ocells

Lento

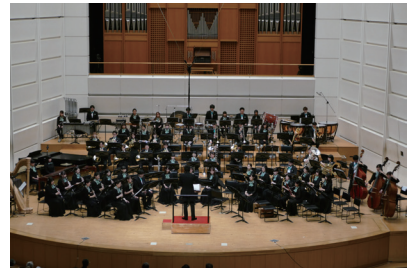
En veu - re des - pun - tar el ma - jor llu - mi - nar en la nit més dit -  
xo - sa, els o - ce - lles can - tant, a fes - te - jar - lo  
van amb sa ve - u me - lin - dro - sa. els o - ce - lles can -  
tant, a fes - te - jar - lo van amb sa ve - u me - lin - dro - sa.

# Members

## 洗足学園音楽大学グリーン・タイ ウインド・アンサンブル

Senzoku Gakuen College of Music Green-Tie Wind Ensemble

学園の色の一つ「緑」を冠した吹奏楽授業。2009年、作曲家・伊藤康英と共に始動。作曲家の視点を交えた楽曲分析やこだわりの選曲が特徴。これまでに、ダグラス・ポストック氏とは10回にわたる「古典名曲シリーズ」を継続、日本初演、世界初演曲も数多く紹介してきた。またティモシー・レイニッシュ氏ら名だたる指揮者を招聘。藤岡幸夫氏がナビゲーターを務めるBSジャパンの人気クラシック番組「エンター・ザ・ミュージック」にもたびたび出演。また、台湾、シンガポール、韓国にて交流演奏会を行っており、広くアジアにも多くのファンを擁する。



Concertmistress	笠 歌純	Inspector	佐野 鈴菜	植田 優花	大石 水紀	
Flute	佐野 鈴菜 行徳 ほのか 足達 月菜	辻 陽香 齊藤 麗	土持 志織* 清水 花恵	中川 彩 山田 希宝	中川 花音 瀧本 こころ	石川 裕葵 中村 愛美
Oboe	入谷 菜*	岸原 伶奈	川村 真歩#			
Clarinet	福永 愛華 有田 春花 石井 綾菜#	伊藤 真緒* 宇佐美 碧	笠 歌純 薄井 萌々子	TRAN NGUYEN NGOC ANH 曾山 舞美	村松 優衣 松崎 稀菜	矢ヶ崎 貴史 藤森 千陽♪
Bassoon	塩谷 花笑	上治 唯奏*	平川 真鈴			
Saxophone	國澤 美空 福地 日向子 下藤 香花	伊東 玲美 松岡 梨帆 八木 寛菜	岩城 玄仁* 山岸 咲野 山崎 遼介	岸本 楓 大幸 拓未 熊木 萌奏	佐藤 葵 亀澤 咲葵	高橋 星良 渋谷 瑛奈
Horn	佐藤 俊輝*	梶田 菜朋	種子田 佳歩	植田 香帆	山田 日香流	佐藤 駿井
Trumpet	植田 優花* 神山 証紀 稲田 菜摘	佐々木 右京 竹内 大輝 江浦 蓉蓉	谷口 諒 手塚 柚季 小松 美羽	堀江 風雅 友野 楓 野村 日菜乃	渡辺 寛子 樋口 萌々花	石井 華音 桃井 智穂
Trombone	出田 希乃 望月 愛永	永吉 彩花 鶴飼 輝	三浦 健* 神田 拓海	宇賀那 晴臣	CHI YAN-JEN	伴 芽衣菜
Euphonium	佐々野 広雅	関口 嬉架*				
Tuba	下田 真寛	寺崎 菜*	櫻井 希有	佐藤 凧紗	丸山 結希帆	
Contrabass	本橋 和樹#	横山 葉瑠奈#				
Percussion	榎本 耀 前田 伶弥 廣木 太陽	大石 水紀* 村上 愛佳 渡辺 優生	田代 万莉子 八木 優弥 竹内 夏美	林 英希 大野 紗楽 田中 遥己	福本 奏音 小川 友李江 李 泰我	古橋 優実 川崎 友仁
Piano	孫 百誼♪					
Harp	大隅 レオナ#					

#…演奏補助要員 ♪…賛助 \*パートリーダー

合奏指導教員 伊藤 康英 瀬尾 宗利  
企画運営責任者 伊藤 康英

※本日出演しないメンバーの氏名も掲載しております。